

ホストシティTokyoプロジェクトの総括について

ホストシティTokyoプロジェクトの取組

- 東京2020大会の開催準備を加速させるため、平成29年6月、副知事をトップに「ホストシティTokyoプロジェクト推進本部」を立ち上げ、全庁一丸で重点施策を推進する体制を構築

- 東京2020大会の成功に向けて、6分野16プロジェクトを全庁横断的に推進

I 大会気運醸成

II 魅力発信

III 復興・防災

IV 環境

V 先端技術

VI 人材育成・活躍支援

- ✓ 大会に向けて、バリアフリーなど誰もがやさしさを感じられるまちづくりや、メダルプロジェクト・水素活用など持続可能性に配慮した取組を行うとともに、スムーズビズ、暑さ対策、ボランティアなど、多面的な取組を実施
- ✓ 新型コロナウイルス感染症による状況変化に応じ、文化プログラムやライブサイトなどでオンライン方式を導入して発信力を強化
また、東京都メディアセンターでは、オンラインサービスを基軸に、国内外のメディアに対し、東京の魅力などを発信

本プロジェクトにおける取組や経験を今後の都の事業展開に活かし、継続・発展させていく

ホストシティTokyoプロジェクトの主な取組（1/3）

東京2020大会までの取組

ボランティア（シティキャスト）の活動

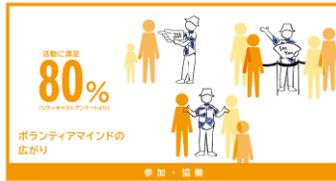
- 羽田空港における選手のお迎え・お見送りや東京スポーツスクエアでの来場者案内等の活動を実施
 - 活動参加者数：**11,913名（延べ20,676名）**
 - 大会後の活動継続意向：**96.4%**



【羽田空港における選手のお迎え】



【東京スポーツスクエアでの活動】



【インフォグラフィック】

パラスポーツとバリアフリーの推進

- パラスポーツの魅力等を広く発信
 - TEAM BEYONDメンバー：**140万人以上**
 - NO LIMITS CHALLENGE累計来場者数：**約22.5万人**
 - パラ応援大使がパラスポーツの魅力等を広く発信

- 宿泊施設のバリアフリー化を推進
 - 国内で初**となる一般客室の基準の
条例化を実施



- 約3,200室**のバリアフリー客室を確保（大会までの3年間で約460室から7倍）
【バリアフリー化された客室例（京王プラザホテル）】

- 都内の施設や交通機関のバリアフリー情報をポータルサイト「とうきょうユニバーサルデザインナビ」で提供

- 大会に携わったボランティアの活動を支援する仕組みとして「東京ボランティアレガシーネットワーク（VLN）」を構築
- VLNにおいて、幅広い活動に係る情報発信やボランティア同士の交流の場を提供

- パラスポーツ等の体験や対戦ができるイベントの実施、競技大会の観戦機会の提供
- パラスポーツ・バリアフリーにさらに光を当て、社会に根付かせていくため、パラバリエを再スタート
- バリアフリー情報が必要な方に向け、円滑な移動・宿泊滞在のための情報を継続して提供

大会後の
主な事業展開

大会後の
主な事業展開

ホストシティTokyoプロジェクトの主な取組 (2/3)

東京2020大会までの取組

文化プログラムの展開

- 多彩な文化プログラム「Tokyo Tokyo FESTIVAL」を展開し、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組を実施



【TURN】
背景や習慣の違いを超えて
交流するアートプロジェクト



【サラダ音楽祭】
赤ちゃんから大人まで楽しむ
音楽祭

- 国内外から応募のあった**2,436件から選定した特別な13の企画**を、オンライン配信も活用するなど工夫を凝らし実現



【まさゆめ】
東京の空に「実在する一人の
顔」を浮かべるプロジェクト



【東京大壁画】
ビルをキャンパスに見立てた、
世界最大級の巨大壁画アート

- 実施件数：**約16万件**、参加者：**約3,900万人**

水素活用・暑さ対策

- 福島県産の再生可能エネルギーを用いて製造された水素を、大会時の選手村の電力供給に活用

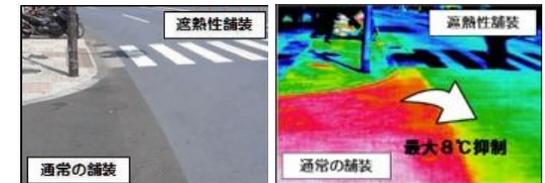
- 燃料電池自動車や水素ステーションの普及促進

- 燃料電池自動車：累計**1,573台普及**（2020年度末）
- 水素ステーション：累計**21か所整備**（2020年度末）

- 競技会場周辺等で暑さを緩和するクールエリア・クールスポットを創出

- 路面温度上昇を抑制するため、遮熱性舗装等を整備

- 累計**約157km整備**
(2020年度末)



【遮熱性舗装による路面温度低減効果】

大会後の 主要事業展開

- 文化プログラムの成果を踏まえ、新たな文化戦略を策定予定
(2030年度までの文化政策の方向性)
- ・誰でもどこでも気軽に芸術文化を楽しむ取組の強化
- ・コロナ禍で生まれた新たな楽しみ方を拡大 等

大会後の 主要事業展開

- 環境先進都市のモデルとなる都市の実現に向け、大会後の選手村地区を整備
- 水素ステーションの整備拡大や商用F C車両の実装化等、水素利用を加速
- 暑さ対策の社会への定着に向け、区市町村等と連携した暑熱対策や、遮熱性舗装等の整備を継続して推進

ホストシティTokyoプロジェクトの主な取組 (3/3)

東京2020大会までの取組

オリンピック・パラリンピック教育の推進

- 多様な教育活動を展開し、5つの資質を重点的に育成
 - **約2,300校**の都内全公立学校で教育活動を展開



【5つの資質】

- 5つの資質を伸ばすための4つのプロジェクトを実施



地域やスポーツ大会、福祉施設等で発達段階に応じたボランティア活動を実施

【東京ユースボランティア】



障害者スポーツの観戦・体験、スポーツを通じた特別支援学校と地域の学校等との交流など

【スマイルプロジェクト】



子供たちがオリンピック・パラリンピック等と直接交流

【夢・未来プロジェクト】

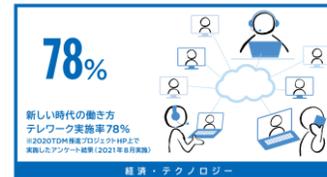


大会参加予定国・地域を幅広く学び、実際の国際交流に発展

【世界ともだちプロジェクト】

スムーズビズの推進

- テレワークや時差Biz、交通需要マネジメント(TDM)等の取組を「スムーズビズ」として一体的に推進
 - 都内企業のテレワーク導入率
 - ： **57.8%** (2020年)
 - 時差Biz
 - ： **2,062社等が参加** (2021年11月12日時点)
 - 2020TDM推進プロジェクト
 - ： **910団体・52,202社・事業所**が参加



【インフォグラフィック】



【「東京2020大会期間中のお願いです。」ポスター】



【「ARIGATO~そして、これからも。」ポスター】

大会後の 主な事業展開

- 5つの資質を伸ばすために取り組んできた活動を、「学校2020レガシー」として、大会後も長く続く教育活動に発展
- 生徒向けボランティア情報の提供、アスリート等の派遣、大使館等とのコーディネート等を実施

大会後の 主な事業展開

- 大会も契機に進んだテレワークやオフピーク通勤、物流の効率化が社会に定着するよう、取組を継続的に推進

(参考) 新型コロナウイルス感染症への対応

- 新型コロナウイルス感染症を踏まえ、様々な工夫しながら、ホストシティTokyoプロジェクトを展開

オンライン方式を取り入れた様々な取組の実施

新型コロナウイルス感染症による状況変化も受け、時間や場所にとらわれないオンライン方式を導入し、サービスを提供

(主な取組)

<ライブサイト>

- 集客型のライブサイト等から転換し、自宅観戦に役立つ特設WEBサイトを開設



【みんなの東京2020応援チャンネル】

<ボランティア (シティキャスト)>

- タブレット端末や遠隔操作のロボットを活用し、自宅等に居ながらリモートで来場者を案内



【タブレットを活用したリモート案内】

<TMCにおける情報発信>

- オンラインサービスを基軸に時間・場所にとらわれない取材支援を行い、東京の魅力や都の取組を国内外に発信



【オンラインブリーフィング (TMCトーク)】

<Tokyo Tokyo FESTIVALの展開>

- アートプロジェクト「TURN」など、オンライン配信も活用しながら実施



【TURN】

感染対策とホストシティとしての取組の両立

事前検査や人数制限等の新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、ホストシティとしての取組を着実に実施

(主な取組)

<ボランティア (シティキャスト)>

- 活動前に検査を行う取組等を実施
- 都のワクチン接種センターにおける接種機会も提供



【空港における選手のお迎え】

- 感染症対策を徹底した上で、空港における選手のお迎えや東京スポーツスクエアでの来場者案内等の活動に参加



【東京スポーツスクエアでの活動】

<TMCにおける情報発信>

- 感染症対策を徹底した上で、シティキャストによる語学サポートなど、メディアの取材活動を支援



【施設 (TMC有楽町)】

<Tokyo Tokyo FESTIVALの展開>

- 感染拡大防止のガイドラインに沿って、「サラダ音楽祭」など多彩なプログラムを実施



【サラダ音楽祭】